

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察技術情報について

平成 29 年度病害虫発生予察技術情報第 1 号を発表したので送付します。

平成 29 年度病害虫発生予察技術情報第 1 号

パッションフルーツにおけるウイルス病の防除対策について

平成 29 年 1～8 月に沖縄県農業研究センターが行った調査の結果、県内すべての地域でパッションフルーツのウイルス病(トケイソウ潜在ウイルス *Passiflora latent virus*、以下 PLV)が確認され、発生ほ場率は 85.7%、発病株率は 80.5%でした。発病後の効果的な対策はないため、健全苗の育成が重要になります。被害拡大を防ぐためにも防除対策を徹底しましょう。

1 生態

- (1) PLV は汁液感染、接ぎ木感染する。
- (2) PLV 感染株では、開花～着果と株に負担がかかる時期になると、新芽の萎縮(図 1)、葉のカール(図 2)や黄化(図 3)、葉脈間の黄化(図 4)、葉面の亀裂(図 5)などの症状が現れる。また枝の生長遅延が起こる。
- (3) 冬期はパッションフルーツ自体の生育が衰えやすいが、特に PLV 感染株では樹勢の低下などの被害が現れやすい(図 6)。
- (4) PLV 感染による果実の奇形は報告されていない。

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) せん定用具は作業する株が変わる度に次亜塩素酸水溶液等で消毒する。
- (2) 株に負担をかけないように、過剰なせん定や着果に注意する。
- (3) 株の生育が旺盛となるように施肥や灌水など肥培管理に注意する。
- (4) 次作の苗を増殖する際は、ほ場内で生育の良い株の枝を用いる。



図1 新芽の萎縮



図2 葉のカール



図3 葉の黄化



図4 葉脈間の黄化



図5 葉面の亀裂



図6 樹勢の低下

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★  
TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933  
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>